

乳幼児の歯科保健の事後評価システムの確立に ついて

米満 正美 ， 川口 陽子 ， 大原 里子 ， 佐々木好幸
岡田昭五郎

要約：全国の保健所等に勤務する歯科医師、歯科衛生士に対して、1歳6カ月児歯科健診の実態、3歳児歯科健診の実態、1歳6カ月児歯科健診と3歳児歯科健診の連携、および健診後のフォローについて調査を行ない以下の結果を得た。

- ① 1歳6カ月児歯科健診の半数以上は保健所で行なわれ、3歳児歯科健診の約3割が保健センターでも実施されていた。
- ② 健診結果の記録については母子健康手帳に約9割、母子管理カードに約7割、歯科独自のカルテに約2割が記録していたがその一貫性については検討の余地があると考えられた。
- ③ 健診後の事後指導、事後措置は1歳6カ月児歯科健診で65.5%、3歳児歯科健診で52.4%とその実施率は低く、充実する必要があると考えられた。
- ④ 1歳6カ月児歯科健診と3歳児歯科健診以外にも歯科集団健診が必要と考えている者が90.6%であった。

見出し語：乳幼児歯科健診、事後評価

乳幼児歯科健診は市区町村が主体となつて行う1歳6カ月児歯科健診と都道府県政令市が主体である3歳児歯科健診が広く行われている。しかし、その実施場所は保健所であったり、市町村の保健センターであったり、またその担い手も常勤の歯科医師、歯科衛生士あるいは保健婦の場合もあるし、非常勤（雇い上げ）の歯科

医師、歯科衛生士であったりして両健診間の有機的な連携を考えると問題点も多いと考えられる。更に、これらの健診後のフォローが小学校に就学するまで円滑に実施されているかも疑問である。

そこで今年度は、1歳6カ月児歯科健診の実態、3歳児歯科健診の実態、1歳6カ月児歯科健診と3歳児歯科健診との連携について調査を行なった。

東京医科歯科大学歯学部予防歯科学教室

1. 調査対象および方法

都道府県、政令市、特別区に勤務する歯科医師、歯科衛生士（歯科医師107名、歯科衛生士378名、合計485名）を対象に1992年11月、郵送質問紙法により調査を行なった。回収した質問紙は307通で回収率は63.3%であった。

2. 調査結果

(1) 1歳6カ月児歯科健診について

1) 1歳6カ月児歯科健診はどこで行なわれていますか？

保健所	175 (57.0%)
保健センター	113 (36.8%)
その他	90 (29.3%)

2) 1歳6カ月児歯科健診の健診者は毎回同じ人ですか？

はい	78 (25.4%)
いいえ	197 (64.2%)
両方	17 (5.5%)
不明	15 (4.9%)

3) 1歳6カ月児歯科健診にあなたは関わっていますか？、

はい	230 (74.9%)
いいえ	74 (24.1%)
不明	3 (1.0%)

4) 1歳6カ月児歯科健診結果は何に記録しますか？

母子健康手帳	273 (88.9%)
母子管理カード	206 (67.1%)

歯科独自のカルテ	79 (25.7%)
その他	60 (19.5%)

5) 1歳6カ月児歯科健診でO₁、O₂型と判定された幼児に対しての健診、清掃指導などの事後指導、事後措置は行なわれていますか？

はい	201 (65.5%)
いいえ	83 (27.0%)
不明	23 (7.5%)

6) その事後指導、事後措置はどこで行なわれていますか？ (5)で「はい」と答えた者の中で

保健所	158 (78.6%)
保健センター	43 (21.4%)
その他	39 (19.4%)
わからない	1 (0.5%)

7) その事後指導、事後措置は誰が行なっていますか？ (5)で「はい」と答えた者の中で

保健所常勤歯科医師	46 (22.9%)
保健所常勤歯科衛生士	172 (85.6%)
雇上げの歯科医師	40 (19.9%)
雇上げの歯科衛生士	100 (49.8%)
その他	24 (11.9%)
わからない	2 (1.0%)

8) その事後指導、事後措置の内容は何に記録されますか？ (5)で「はい」と答えた者の中で

母子健康手帳	105 (52.2%)
母子管理カード	69 (34.3%)
歯科独自のカルテ	128 (63.7%)
その他	30 (14.9%)

わからない	4 (2. 0 %)	いますか? (13)で「はい」と答えた者の中)	
		保健所	1 4 9 (9 2. 5 %)
(2) 3歳児歯科健診について		保健センター	2 7 (1 6. 8 %)
9) 3歳児歯科健診はどこで行なわれていますか?		その他	2 8 (1 7. 4 %)
保健所	2 6 0 (8 4. 7 %)	15) その事後指導、事後措置は誰が行なっていますか? (13)で「はい」と答えた者の中)	
保健センター	9 1 (2 9. 6 %)	保健所常勤歯科医師	2 6 (1 6. 1 %)
その他	7 2 (2 3. 5 %)	保健所常勤歯科衛生士	1 4 6 (9 0. 7 %)
10) 3歳児歯科健診の健診者は毎回同じですか?		雇上げの歯科医師	3 4 (2 1. 1 %)
はい	6 5 (2 1. 2 %)	雇上げの歯科衛生士	6 3 (3 9. 1 %)
いいえ	2 0 8 (6 7. 8 %)	その他	1 0 (6. 2 %)
両方	2 8 (9. 1 %)	16) その事後指導、事後措置の内容は何に記録されますか? (13)で「はい」と答えた者の中)	
不明	6 (2. 0 %)	母子健康手帳	8 4 (5 2. 2 %)
11) 3歳児歯科健診にあなたは関わっていますか?		母子管理カード	5 6 (3 4. 8 %)
はい	2 8 4 (9 2. 5 %)	歯科独自のカルテ	8 2 (5 0. 9 %)
いいえ	1 8 (5. 9 %)	その他	3 2 (1 9. 9 %)
不明	5 (1. 6 %)	12) 3歳児歯科健診の結果は何に記録しますか?	
母子健康手帳	2 8 1 (9 1. 5 %)	(3) 1歳6カ月児歯科健診と3歳児歯科健診の連携について	
母子管理カード	2 0 4 (6 6. 4 %)	17) 3歳児歯科健診の時、1歳6カ月児歯科健診の結果の記載は参考になっていますか?	
歯科独自のカルテ	5 9 (1 9. 2 %)	大いに参考になっている	9 3 (3 0. 3 %)
その他	7 1 (2 3. 1 %)	まあまあ参考になっている	1 2 8 (4 1. 7 %)
13) 3歳児歯科健診後に齲歯の治療勧告以外の事後指導、事後措置は行なわれていますか?		あまり参考になっていない	4 0 (1 3. 0 %)
はい	1 6 1 (5 2. 4 %)	ほとんど参考になっていない	3 6 (1 1. 7 %)
いいえ	1 3 6 (4 4. 3 %)	不明	1 0 (3. 3 %)
不明	1 0 (3. 3 %)	18) 17)で「あまり参考になっていない」、「ほとんど参考になっていない」と答えた人に伺い	
14) その事後指導、事後措置はどこで行なわれて			

ます。それはどうしてですか (保育園、幼稚園を除く)

記載が不備だから	14 (18.4%)	はい	127 (41.4%)
健診基準が健診者により違うことが多いから		いいえ	165 (53.7%)
	29 (38.2%)	不明	15 (4.9%)

時間的に1歳6カ月児歯科健診結果を見る余裕がないから

50 (65.8%)	22)それは何歳ですか? (21)で「はい」と答え た者の中)
23 (30.3%)	

19)現在、法(通知)のもとでの乳幼児歯科集団健診は1歳6カ月児歯科健診と3歳児歯科健診が実施されていますがそれ以外に歯科集団健診が必要と思いますか?	2歳	79	
	2歳半	31	
	1歳	21	
	10カ月	9	
	5歳	7	
必要だと思う	278 (90.6%)	その他	22

必要とは思わない	18 (5.9%)		
わからない	7 (2.3%)	23)その健診者は誰ですか? (21)で「はい」と 答えた者の中)	
不明	4 (1.3%)	保健所常勤の歯科医師	40 (31.5%)
		歯科医師会からの歯科医師	69 (54.3%)
		その他	29 (22.8%)

20)もし、歯科集団健診を行なうとしたら何歳が
適当と思いますか? (19)で「必要だと思う」と
答えた者の中)

4カ月	21 (7.6%)	24)もし、1歳6カ月児歯科健診と3歳児歯科健 診以外に歯科集団健診を行なう場合、問題があ りますか?	
1歳	122 (43.9%)		
2歳	174 (62.6%)	特に問題はない	41 (13.4%)
3歳半	18 (6.5%)	財政的に問題がある	165 (53.7%)
4歳	82 (29.5%)	人的資源に問題がある	178 (58.0%)
4歳半	13 (4.7%)	時間的に問題がある	116 (37.8%)
5歳	165 (59.3%)	場所(空間)に問題がある	76 (24.8%)
その他	34 (12.2%)	その他	21 (6.8%)

21)現在、あなたの保健所管内で1歳6カ月児歯
科健診、3歳児歯科健診以外に乳幼児を対象に
した同様な歯科集団健診を行なっていますか?

25)保育所(園)で歯科健診は行なわれています
か?

全てで行なわれている	173 (56.4%)	健診基準の統一	22 (17.6%)
一部で行なわれている	85 (27.7%)	健診医のレベルの向上	10 (8.0%)
全く行なわれていない	2 (0.7%)	スタッフの増員	9 (7.2%)
わからない	36 (11.7%)	1歳半より前に健診が必要	5 (4.0%)
不明	11 (3.6%)		

◇3歳児歯科健診（回答者118名）

26)幼稚園で歯科健診は行なわれていますか？		スタッフ、予算の増加	20 (16.9%)
全てで行なわれている	119 (38.8%)	個別指導を充実する	17 (14.4%)
一部で行なわれている	93 (30.3%)	健診基準の統一	13 (11.0%)
全く行なわれていない	2 (0.7%)	健診医のレベルの向上	10 (8.5%)
わからない	81 (26.4%)	フォローを充実する	10 (8.5%)
不明	11 (3.6%)	保育園、幼稚園との連携	5 (4.2%)

27)1歳6カ月児歯科健診と3歳児歯科健診の連携をより良くするためにはどうしたら良いと思いますか？（回答者206名）

同じ機関で行なう	66 (32.0%)
個人カルテを充実させる	57 (27.7%)
1歳6カ月と3歳の間にも健診を行なう	31 (15.0%)
フォローを行なう	24 (11.7%)
同じ健診者で行なう	21 (10.2%)
常勤の歯科医師、歯科衛生士を置く	15 (7.3%)
スタッフの教育	11 (5.3%)
母子手帳の活用	9 (4.4%)
健診基準の統一	8 (3.9%)

28)現行の1歳6カ月児歯科健診と3歳児歯科健診についての意見

◇1歳6カ月児歯科健診（回答者125名）	
保健指導の充実が必要	39 (31.2%)

29)現行の乳幼児歯科保健についてのその他の意見（回答者144名）

4、5、6歳で健診	38 (26.4%)
スタッフの増員	17 (11.8%)
個別指導の充実	16 (11.1%)
離乳期の指導の充実	14 (9.7%)
年に数回健診を受ける	14 (9.7%)
健診基準の統一	13 (9.0%)
健診医のレベルの向上	11 (7.6%)
8020運動に合わせた指導	11 (7.6%)
学校保健との連携	7 (4.9%)
考察	

昭和52年6月に厚生省児童家庭局長通知により実施されて今日に至っている1歳6か月児歯科健診は、市町村、特別区が主体となって実施することになっている。今回の調査で半分以上(57.0%)が保健所で実施していると答

えていることは、この事業が生まれて10数年しか経ってなく、以前から行われていた3歳児歯科健診の実施形態に付随した形で行われていることを窺わせる。一方、市町村、特別区が運営する保健センターで実施されていると答えた者は36.8%であった。また、3歳児歯科健診は保健所で84.7%、保健センターで29.6%で実施されており、元来保健所で実施されるべきものが地域住民により近い保健センター等でも行われるようになってきていることを示している。しかし、この事は場所によっては1歳6か月児歯科健診と3歳児歯科健診が別々のところで実施されていることにもなり、両健診間の有機的な連携がとれないことの原因の一つにもなっている。その一つの表われとして「1歳6か月児歯科健診と3歳児歯科健診の連携をより良くするためにはどうしたら良いと思いますか」の問いで、一番多かった意見が「両健診を同じ機関で行なう」であったことから解る。

健診結果の記録については、約9割の者が母子健康手帳に記録し、7割弱が母子管理カードに、また歯科独自のカルテに記録している者が約2割であった。先程の「両健診間の連携をより良くするためにはどうしたら良いと思いますか」の問いで「同じ機関で行なう」に次いで多かったのが「個人カルテの充実」であり、今後改善の余地があるものと思われる。

1歳6か月児歯科健診の事後指導、事後措置では「行なっている」と答えた者は65.5%であったが、3歳児歯科健診では52.4%の者が「行なっている」と答えたにとどまった。また、事後指導、事後措置内容の記録は母子健

康手帳に記録している者が1歳6か月児歯科健診、3歳児歯科健診共に52.2%であり、母子健康手帳には健診結果の記録に比べて事後指導、事後措置内容が記録されていない場合がかなりあると推察された。

現行の1歳6か月児歯科健診と3歳児歯科健診以外に歯科集団健診が必要だと答えた者は90.6%おり、その時期は2歳が62.6%と最も多く、次いで5歳の59.3%、1歳の43.9%となっており、人的資源、財政などの問題が解決されれば実施した方がよいという意見が多かった。このことは乳幼児のう蝕は特に低年齢で減少傾向にあるものの4、5歳頃になると依然として高いう蝕罹患率を示していることとも関連していると考えられる。

今回の調査は、都道府県、特別区、市、それに保健所に勤務する歯科医師、歯科衛生士を対象にしたもので、歯科の専門職のいない地域の事情までは把握できなかったが現在の乳歯う蝕の罹患状態を見ると保健所等の公衆衛生機関に常勤の歯科医師、歯科衛生士がいない地域においては概してう蝕罹患率は高く歯科健診システムの充実もさることながら保健所、保健センター等への歯科医師、歯科衛生士の配置も早急に検討されることが望まれる。

今後の乳幼児の歯科保健を向上させるには、①同一機関で個人のカルテを充実してフォローすること、②3歳以降も4歳、5歳で健診と保健指導を実施する必要があるという意見が強かった。個人カルテをどのように作成し、活用するか、また就学までの一貫したフォローシステムをどうするかなどが今後の課題である。



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用 論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



要約:全国の保健所等に勤務する歯科医師、歯科衛生士に対して、1歳6ヵ月児歯科健診の実態、3歳児歯科健診の実態、1歳6ヵ月児歯科健診と3歳児歯科健診の連携、および健診後のフォローについて調査を行ない以下の結果を得た。

1歳6ヵ月児歯科健診の半数以上は保健所で行なわれ、3歳児歯科健診の約3割が保健センターでも実施されていた。

健診結果の記録については母子健康手帳に約9割、母子管理カードに約7割、歯科独自のカルテに約2割が記録していたがその一貫性については検討の余地があると考えられた。

健診後の事後指導、事後措置は1歳6ヵ月児歯科健診で65.5%、3歳児歯科健診で52.4%とその実施率は低く、充実する必要があると考えられた。

1歳6ヵ月児歯科健診と3歳児歯科健診以外にも歯科集団健診が必要と考えている者が90.6%であった。